

主体的な学びに活かすデジタルポートフォリオ評価の実践

つくば市立竹園東小学校 吉田 浩

1 実践の目的

今、教育界では、児童生徒に生きる力を育むことを目指し、児童生徒の主体的な学びが重視されている。そのために、児童生徒の自らの学習過程を振り返り、新たな自分の目標や課題をもって学習を進めていけるような評価が必要とされている。しかし、現実には、ペーパーテストやノート、ワークシートなどで、きちんと進歩の状況が評価しやすいものもあれば、評価しにくいものもある。問題なのは、評価しにくいものをどう評価するかなのである。

そこで、評価しにくい、国語の朗読などをどう学びに活かす評価をしていくか、IT機器を活用し、その在り方について追究していった。

2 活用した物

デジタルカメラ

コンピュータ

グループウェア「スタディノート」(シャープシステムプロダクト)

3 適用した授業

国語(小学校5, 6年)

図工(小学校5, 6年)

体育(小学校4, 5, 6年)

総合的な学習の時間(小学校5, 6年)

4 特徴

今、総合的な学習の時間での一般的な評価方法となっている、ポートフォリオ評価、その考えとIT機器の活用を合わせた、新たな実践であること。

5 内容

- (1) デジタルポートフォリオとは?
- (2) 評価の在り方について
- (3) 国語の朗読学習での実践
 - ア 小学校5年
 - イ 小学校6年
- (4) 図工, 体育, 総合的な学習の時間での実践
- (5) 研究の成果と今後の課題